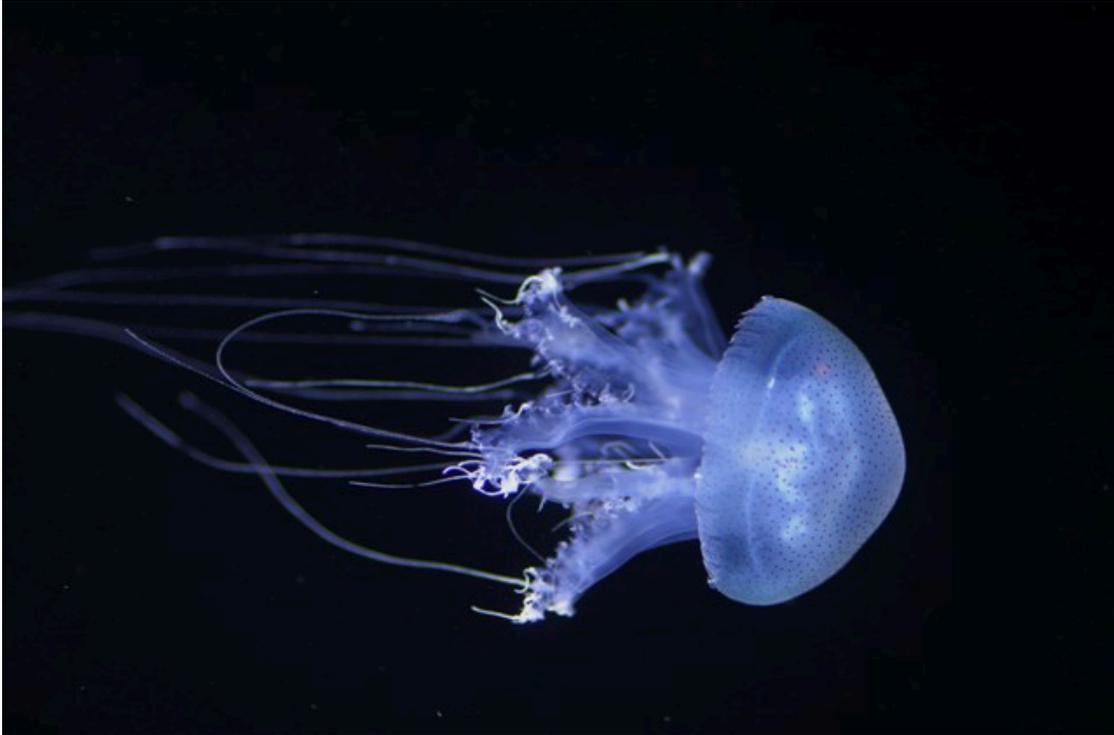


東南アジアで採集された「ヒョウガライトヒキクラゲ」 3館で世界初公開

北里アクアリウムラボ(所在地:神奈川県相模原市)、新江ノ島水族館(所在地:神奈川県藤沢市)、鶴岡市立加茂水族館(所在地:山形県鶴岡市)では、成長すると傘の模様が豹柄になるクラゲの展示を、6月1日(木)より開始いたします。



ヒョウガライトヒキクラゲ 学名 *Acromitus maculosus*

「ヒョウガライトヒキクラゲ」は、1914年に見つかったクラゲですが、その後100年近くはっきりとした生息報告がありませんでした。2013年に広島大学の太塚教授、東海大学の西川教授が本種をフィリピンで再発見しましたが、生息環境などの詳細は不明でした。しかし、2016年9月、[広島大学](#)・[北里大学](#)・[新江ノ島水族館](#)・[鶴岡市立加茂水族館](#)との合同チームで行われたフィリピン調査において本種が確認され、生息環境の把握と生体の採集、さらに繁殖にも成功し、今回繁殖個体を公開する運びとなりました。

本種はフィリピン西の一部の河口域で見られ、成長すると傘が豹柄模様になります。現地では傘の直径が20cm前後の個体も確認しましたが、成長過程や傘の模様の変化などは飼育を通じて今後明らかにしてゆきます。



豹柄模様が美しいクラゲである(写真は野生個体)

「ヒョウガライトヒキクラゲ」はフィリピン調査チームの北里アクアリウムラボ・新江ノ島水族館・鶴岡市立加茂水族館の3館にて世界初の展示公開となります。

鶴岡市加茂水族館で公開する個体は、採集した成熟個体から卵を持ち帰り、繁殖に成功した個体です。ポリプから遊離後約3か月で、傘の直径が5cm程に成長し、傘に斑点模様と、このグループの特徴である糸状の口腕付属器が確認できました。当館では水温や塩分を採集地の東南アジアの生息環境に合わせて飼育を行っています。餌は1日2回行い、クラゲの状態や大きさに合わせて餌量を変えています。今後も展示飼育を続け、生態解明に力を入れていきたいと思えます。

※共同研究

「フィリピンにおけるクラゲ類の分類・生態に関する研究、特に生活史と共生生物群集について」

代表者：大塚攻(広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター)